

クモを探して時速数十m

9月10日(日)北本自然学習センターで「クモ研修会」が18名の参加者のもと実施された。講師はお馴染み(3回目!)平松毅久さんです。今回のテーマは「易しいクモの見分け方」です。でも、クモの観察歴20年以上の平松先生でも言います。「クモの見分け方に王道なし」。まあとりあえずパワポを使って、ざっくりと網の種類や生態の違いなどで「見分け方」を学んだ後、実物を見るのが識別の基本とのことでフィールドワークに出発。動植物何でもそうですが、何も気にしないで歩けばせつせと通ってしまうものの、何かを観察し始めると歩みは遅々となります。クモの観察はそれが特に顕著で、「時速数十m」と言われる所以です。

今日のテーマの「易しい見分け方」はとてもここでは書ききれず、図鑑やWikipediaを見れば概ね解ることなので、研修会に参加しないと聞けない、へー、なるほど、そうなんだ、等の、観察会などで話のネタになるようないくつかの種類の話を紹介します。

ジョロウグモ：早は網の中で動くものは何でもエサだと思うため、交接を狙うみは必死です。脱皮直後が動きが鈍いため狙い目らしくその時を待っています。では脱皮の時をどのように知るか。どうやら脱皮殻の匂いで判断しているらしいことが解ってきたとのことです。

イソウロウグモ：ジョロウグモの網の隅っこの方に、仁丹粒のような銀色に光る小さなクモがいることがあります。シロカネイソウロウグモで、網にかかったエサのおこぼれを頂戴して生きるまさに居候生活をしています。イソウロウグモにも種類がいて、中には主のエサを奪ったり、殺してしまうものもいたりして、居候というより居直り強盗のようなやつもいるようです。

ウズグモ：ウズ巻のような隠れ帯を付けた網を見ることがあります。この帯、エサが少ないときに作るようで、ウズ状にすると網の張力が増し小さな獲物がかかりやすいようにしていると言われています。ちなみに満腹時は直線の帯を付けるそうです。

カグヤヒメグモ：優雅な名前ですが、学名の種名語源の「月」から命名された和名と言われているようです。同じヒメグモ科にセアカゴケグモがいますが、片や「姫」、片や「後家」では気の毒なような気がしないでもありません。



カタハリウズグモの隠れ帯



カグヤヒメグモ食事中

トリノフンダマシ：よく見ると白地に黒っぽい模様はいかにも鳥のフンを模しているように見えます。でも同種のオオトリノフンダマシは、どう見ても「カマキリグモ」と命名してもよさそうな顔つきですが。



トリのフン?カマキリ?